

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんげきだんこーろ		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人劇団こーろ		http://kooro.org
代表者職・氏名	代表理事・澳 利子		
制作団体所在地	〒	546-0012	最寄り駅(バス停) 駒川中野駅
	大阪市東住吉区中野1-4-15		
電話番号	06-6704-0624		
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじんげきだんこーろ		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人劇団こーろ		http://kooro.org
代表者職・氏名	代表理事・澳 利子		
公演団体所在地	〒	546-0012	最寄り駅(バス停) 駒川中野駅
	大阪市東住吉区中野1-4-15		
制作団体 設立年月	2011年12月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事・澳 利子 理事:岡崎久美子 坂口勉 植田智子		社員4名 理事4名・監事1名 ※この法人の目的及び事業に賛同する社員をもって構成されている。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	岡崎久美子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	植田智子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@kooro.org		

制作団体沿革	<p>2011年12月、「現代を的確に捉え、人々が未来を語る糧となるべき演劇を創造するとともに、演劇の普及・向上に努めることにより、我が国の演劇の発展に寄与すること」を目的として設立。以来、学校公演、おやこ劇場子ども劇場公演、ホール主催公演、大人向け一般公演等、幅広く活動し、現在に至る。</p> <p>※主な活動</p> <p>2012年7月、「劇団コーロの三びきの子ぶた」が韓国・密陽演劇祭に正式招聘される。</p> <p>2018年2月、「天満のどらやん」でアジア児童青少年芸術フェスティバル2018に参加。</p> <p>2019年12月、八尾プリズム演劇助成事業として「眠っているウサギ」を上演。</p> <p>2021年1月、文化庁“次のにない手を育成する子ども向けコンテンツ制作事業”として石垣市で「いえででんしゃ」を上演。</p> <p>2021年11月、文化庁「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」としてピアノ&ヴァイオリンとのコラボレーションによる「ハンナのかばん」公演の大阪・名古屋連続開催(公演後に動画配信)。</p> <p>2022年3月、創立10周年記念として、大阪劇団協議会プロデュース公演として上演するイブセン作「民衆の敵」の企画性枠を担当。</p> <p>2022年7月、文化庁「コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業」として、「眠っているウサギ」伊東公演を実施、さらに新作公演としてミヒャエル・エンデ原作の「モモ」を上演(9月&12月)。</p>	
学校等における公演実績	<p>※設立の翌年・平成24年度より学校公演実績あり</p> <p>●令和元年度「天満のどらやん」小学校27公演、中学校1公演、子ども劇場おやこ劇場2公演、ホール主催2公演、その他2公演／「いえででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場7公演、ホール主催公演(全市小学生対象)9公演／「ハンナのかばん」中学校3公演／「眠っているウサギ」自主1公演</p> <p>●令和2年度「天満のどらやん」小学校公演2公演、子ども劇場おやこ劇場5公演、演劇鑑賞会1公演／「いえででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演1公演、ホール主催1公演／「ハンナのかばん」中学校2公演、高校1公演／「眠っているウサギ」自主1公演</p> <p>●令和3年度「天満のどらやん」小学校5公演、子ども劇場おやこ劇場1公演／「いえででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演2公演</p> <p>●令和4年度「天満のどらやん」小学校8公演、ホール主催1公演、その他1公演／「ハンナのかばん」中学校2公演、高校1公演／「眠っているウサギ」高校1公演、子ども劇場おやこ劇場2公演</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>「天満のどらやん」2校(大阪府立八尾支援学校、大阪市立難波特別支援学校)</p> <p>「ハンナのかばん」2校(主催:甲賀・湖南市高等学校人権教育連絡協議会)</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	http://kooro.org/works/01.html
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人劇団コロロ 】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	舞踊唄芝居「天満のとらやん」		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「天満のとらやん」 作/かたおかしろう 演出/二世茂山千之丞 演出補/三世茂山千之丞 お囃子指導/藤舎呂浩</p> <p style="text-align: right;">公演時間 65 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 著作権、ロイヤリティ
	該当事項がある場合	権利者名 作者の遺族、演出家	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>大阪の天満の町に住んだのんきぼうずの“とらやん”がうなぎを追いかけ、どこいくねん。大根畠から傘屋町、雲の上から竜宮城……。</p> <p>大阪の民話をもとにつくられた抱腹絶倒、奇想天外の冒険大旅行話を、出語り太夫の語りや日本の伝統芸能の音色とともにお送りします。(キャッチ・コピー: 狂言と和楽器の魅力を現代に生かした「とらやん」の決定版！)</p> <p>※作品のあらすじ・見どころについては、添付の別紙参照のこと</p>		
演目選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ●「天満のとらやん」は、大阪の民話を持つバイタリティーや庶民のエネルギー満載の作品です。好奇心旺盛で、ちょっとした失敗にあってもめげることなく、次から次へ様々な体験をしていくとらやんの姿は、観ている子供たちを元気にするでしょう。 ●奇想天外なストーリーと伝統芸能を現代に活かした様式がうまく噛み合った作品であり、子供たちはお囃子のリズムと出語り太夫の語りに乗せられてこの世界にすんなり入り、日本の伝統芸能に自然と親しみを感じるようになっていくことでしょう。 ●出語り太夫の語る大阪弁を通して、大阪弁の魅力に触れることができます。 		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ■大根引きの場面: 舞台上よりとらやんが「音頭とって、ごっつい大根ひっぱるよってに、みんなも声あわせて応援して欲しいねん！」と、応援として大根と一緒に引くよう、子供たち全員に呼びかけます。子供たちは、その場で、まず、とらやんが大根を引く動作を真似、その後、お囃子のリズムに合わせてとらやんと一緒に大根引きの演技をします。 ※ワークショップで稽古した場面とは関係なく、毎公演で実施します。 ■ラストの場面(とらやんが旅行を終えて漁師に見送られ天満の町に帰ろうとする場面): 事前のワークショップに参加した子供たちが法被姿になり、学校になるリズム楽器(ギロ・タンバリン・カスタネット等)を使って漁師役の出演者たちと共演します。 ■公演後にバックステージツアーも可能です。 		
出演者	<p>とらやん: 村井祥悟 お嫁ん・乙姫・漁師: 梶原くみ 傘屋・雷・漁師: 枯木隆志 イナビカリ・侍女・漁師: 平井佐智子 老婆・子ガミナリ・新幹線: 越賀はなこ・小池貴史(※ダブルキャスト) 出語り太夫: 魚谷尚代</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 6 名</p> <p>スタッフ: 2 名</p> <p>合計: 8 名</p>	運搬	<p>積載量: 2 t</p> <p>車長: 4.7 m</p> <p>台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		—	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～10時	13時30分～ 14時35分	0分	15時～16時	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	5日	0日	5日	5日	
	11月	12月	1月	計	35日	
	5日	5日	5日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	20名～30名
		鑑賞人数目安	500名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(図1) 体育館舞台上に装置を設置した様子
※上手側の出語り太夫台及び下手側のお囃子台は仮設舞台です。



(図2) 小学校公演の様子
(幕開きの場面)

※体育館全体を芝居小屋の雰囲気に仕立てたく、客席の両側に幟を立てています。



(図3) 下手側のお囃子台
※約20種類の和楽器が並んでいます。



(図4) 上手側の出語り太夫台

※基本的に、体育館の舞台上に装置を設置して上演しますが、体育館に舞台がない(フロアのみ)場合は、フロアに装置を設置して上演するのも可能です。

【公演団体名 一般社団法人劇団コーロ】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1部:全校児童・生徒 2部:30名程度(1クラス単位)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>■実施形態:全体で2時間(授業時間単位で)2部構成に。 1部:全校児童・生徒/2部:1クラスもしくは1学年(公演当日共演する児童・生徒)</p> <p>■内容</p> <p>第1部(45分～50分):全校児童・生徒対象 ①講師紹介・作品紹介をする。 ※講師紹介の際、児童・生徒に親しみをもってもらうようあだ名も紹介する。 ②ウォーミングアップとして簡単なストレッチ・発声練習を行い、その後、シアターゲーム(後出しじゃんけん・エアーナわとび等)をする。 ※エアーナわとびは、学年単位で行なう。 ③出語り太夫の語りとなる「ちょぼくれ節」の節回しはどんなものかを、木魚を叩きながら実演してみせる。その後、児童・生徒にもその場で両手で膝を叩きながら体験してもらう。 ※節回しの例:芝居冒頭の主人公とらやんを簡単に紹介した台詞「むかし むかし 大阪の 天満のあたりに のんき坊主のとらやんが お嫁んと二人で住んどった (お囃子方)ソレ住んどった」 ④応用編として、児童・生徒たちに文章(いつ・どこで・だれが・どうした)を作ってもらい、それをちょぼくれ節のついで実際に全員で声をあわせて語ってもら(グループに分かれて文章を考えてもらい、それを集めてシャッフルし、一つの文章にする)。</p> <p>第2部(45分～50分):1クラスもしくは1学年 ※出演する際に生徒が持つリズム楽器は、学校にあるものを使う(児童生徒が持っているカスタネット等でもいい)。 ①出演場面の説明をする。 ※児童・生徒が登場するシーンがどこかイメージしやすいように、「お芝居の最後の方」「とらやんが海へ行って漁師に会うところ」「バックに海の絵が出る」と説明。 ②台詞・リズム楽器でのお囃子・踊りの練習をする ※順番:1・登場場面で実際に歌うことになる歌をうたってみる(1番と2番)→2・足のステップをつけて歌ってみる→3・実際にみんなが出演する場面を、少し前からやってみる(いきなり全部を通さなくて、節目で切りながら)→4・歌や台詞も入れてやってみる(何回かやってみる)→5・質問タイム(わからないところがないかを聞く)→5・順番などを書いた簡単な台本を渡す。 ③発表する。</p>		
ワークショップのねらい	<p>1部では、実際にちょぼくれ節で語ってもらうことで、リズムに乗せて大阪弁を話す楽しさを実感できます。そのことで、芝居への期待感がふくらみ、「観る」意識も高まっていくでしょうし、関西に古くからある芸能への興味を持つ機会になると思います。</p> <p>2部では、呼吸を合わせることの楽しさ、友だちと一緒に舞台を創り上げる喜びを、児童・生徒に体感してもらいます。お囃子の楽器として学校のリズム楽器(もしくは児童生徒が持っているリズム楽器)を使用しますが、そのことで、身近な楽器に対して新たな魅力を発見してもらえたらと思います。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ●形態:基本的に、児童・生徒と対面で行なう(1部の後出しじゃんけんや2部の説明は舞台上で行う) ●授業開始の挨拶及び終わりの挨拶は、先生の方でもらう。 ●劇団で準備しておくもの:木魚・締め太鼓等の楽器・漁師の衣裳・法被・歌詞を書いたもの3種(1部用:芝居冒頭の台詞/2部用:共演する場面の歌「えらいこっちゃ」の1番と2番)・ちょぼくれ節体験用の大きめの紙(スケッチブックなど)とマジック(グループ分) ●学校に用意して欲しいもの:ホワイトボード・ホワイトボード用のマーカー・マグネット・リズム楽器(2部用/公演当日に出演する生徒の人数分) 		

本事業への申請理由

【公演団体名

一般社団法人劇団コーロ

】

①本事業に対する取り組み姿勢

芸術鑑賞は、最新の研究で、子供たちの豊かな創造力や思考力、コミュニケーション能力を養うとともに、能の働きを発達させる上でも重要な働きを果たしていることが明らかになっています。さらに、子供時代に芸術に触れる機会を多く持つことが、将来の芸術家や鑑賞者の育成につながるとも言われています。

芸術鑑賞の重要性がこれだけはっきりしているのにも関わらず、日本の現状では、子供たちが学校公演以外の場で芸術に親しむ機会を持つことはほとんど不可能となっています。

そういった意味で、私たちは、本事業の果たす役割は大変大きいと考えています。

本事業では、公演を鑑賞する前に、子供たちは公演に関するワークショップを受けます。ワークショップを受けることで、子供たちは公演の内容をより深く理解することができ、公演への興味が増します。

私たちが取り組む作品で言えば、関西に古くからある芸能を取り入れた内容となっており、ワークショップでは、公演で出語り太夫が語る“ちよぼくれ節”の節回しを、全校生徒に実演してもらいます。そのことで、子供たちは作品に対する関心が増すでしょうし、芸能をより身近に感じるようになると思います。

ワークショップから公演までの取り組みを通して、自己実現の可能性が広がり、新しい自分の発見につながっていきます。友だちと息を合わせて一つのことに取り組む楽しさ・面白さも体感できます。

本番では、実際にプロの俳優と一緒に舞台に立つことで、参加した子供たちに達成感が生まれ、自分に自信が持てるようになります。同時に、友だちと一緒に舞台に立つ喜びを実感する——喜びを分かち合う——こともできます。

私たちは、ワークショップでは、学校の現状に即して臨機応変に対応し、子供たちが達成感を得られ、取り組んで楽しかったと実感できる取り組みにしたいと考えています。

公演では、ふだん体育の授業や集会で使用している空間が「ハレ」の場である劇場にかわる「驚き」を体験できるような舞台づくりを目指していきますし、プロの俳優の演技のすばらしさを子供たちに堪能してもらいたいと考えています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

上演校には、ワークショップ実施前に、事前に作品全体がわかる公演資料、関係する歌詞カード、ワークショップの内容・目的・準備してもらおうもの等を記したものを送ります。それに基づき、メールや電話で担当の先生と相談しながら、準備を進めます。

子供たちが使用するリズム楽器は、学校にあるもの(もしくは子供たちが持っているもの)を使用します。子供たちが着用する衣裳(法被)は、劇団が用意します。

公演に向けては、ワークショップで来校した際に、公演会場となる体育館の下見とともにきっちり事前の打ち合わせを行ないます。

上演当日は、公演前に、出演する子供たちとリハーサルを行ないます(①出演者と顔合わせ、②軽いウォーミングアップ、③セットの紹介、④本番通りにリハーサル)。そして、出演者が入場の誘導を子供たちと挨拶を交わしながら行ないます。希望する学校では、公演終了後に出演者が送り出しをします。希望があれば、バックステージツアーも可能です。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

リンク先 No.2 【公演団体名 一般社団法人劇団コーロ】

演目概要

【あらすじ】
大阪の天満の町に住む“とらやん”が、「まむし井、食べたいわア」というお嫁んのためにうなぎを調理しようとして、うなぎに逃げ出されてしまった。
「つかまえてこな、今日の御膳食べさしまへんよってな！」とお嫁んに言われ、“とらやん”はうなぎを追いかけ、大根島から傘屋町、雷一家が住む雲の上、果ては海の底の竜宮城まで奇想天外な冒険旅行を続ける……。

【作品のみどころ】

●上手側で出語り太夫がちょぼくれ節(木魚をたたきながら節をつけて語る芸)によって大阪弁で語り、下手側で和楽器の生の演奏が効果音やお囃子として奏でられ、それに合わせて、役者が舞台中央でマイムで演じていくという、大阪にわか、文楽、狂言等の伝統芸能の様式に即った舞台となっています。
※作者は「舞踊唄芝居」と名づけています。

●約20種類の和楽器を使います。

●舞台背景は絵本形式のパネルを3つ設置していて、場面が変わるごとに、絵本をめくるように背景もかわっていきます。絵の変化が目にも美しい上に、その場面を想像する助けとなっています。

●6名の出演者の内、出語り太夫、主人公のとらや以外の4名が、入れ代わり立ち代わりして様々な登場人物を演じていきます。その変化を観るのも楽しいものとなっています。

●衣裳は、基本衣裳を始め、日本の伝統芸能を踏襲したデザインとなっています。

●客席の両側に、幟を立て、体育館全体を芝居小屋の雰囲気仕立てしています。

●このお芝居の様式や和楽器を身近に感じてもらいたく、芝居の前説で、様式や使用している和楽器の特徴を簡単に説明します。



←体育館仕様で舞台設営しての稽古の様子

※舞台背景は、絵本形式のパネルとなっています。場面が変わるごとに、絵本のようにめくっていきます。



下手側のお囃子陣
(場面ごとにメンバーがかわります)



上手側の出語り太夫
(木魚を叩きながら節をつけて語ります)



舞台鼻で前説をしているところ



ラストの場面(とらやん役以外の者たちは、出語り太夫含めて全員、漁師として登場します)